

平成22年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

明治34年4月富山市総曲輪に富山県高等女学校が本校の前身として設置されて以来、明治40年4月富山県立富山女子高等学校と改称、大正6年4月現在地堀川小泉へ移転した。一時期、富山県高等学校統廃合計画実施に伴い閉校されていたものの、昭和31年4月再度開校され、平成13年5月創立100周年記念式を挙行了。翌平成14年4月には、男女共学で総合学科及び看護科（5年一貫教育）の2学科を設置した富山いずみ高等学校となった。百有余年の伝統に対する誇りと同時に新しい教育体制のもと、本校の掲げる「教育目標」

豊かな知性と情操を育み、自主自立の精神に富む、未来を切り拓くたくましい人間を育成する。

校訓 心明るく 誠実であれ
行い正しく 勤勉であれ
志高く 聡明であれ

これを具体化した「教育方針」及び「学校経営計画」に基づいて特色ある教育実践に努めている。

本年度は、上記目標を達成すべく、「学習生活の充実」「学校生活の充実」「進路支援の充実」「特別活動の充実」「その他（看護科教育の充実）」の5分野、合計13項目にわたって重点目標を設定して教育活動を行った。各項目は、主管分掌担当者はもとより全教職員が連携して目標達成に努めた。その結果、目標に対する達成度評価は以下ようになった。

（各項目毎の評価） 評価A 7項目、 評価B 3項目、 評価C 3項目

C評価が「学習活動の充実」及び「特別活動の充実」にみられるものの、その他は概ね目標が達成されたものと思われる。したがって、全体としてほぼ本年度の目標は達成されたものと考えられるので

（総合評価） B

とした。

しかし、各項目の達成度を見た場合、評価の高い「進路支援の充実」の実践が「学習生活の充実」にプラスに働くよう連携を図ったり、「特別活動の充実」を通して社会性の向上と共に建設的に人生を築いていこうとしたりする意識を育て、「学校生活の充実」に結びついていくよう工夫していく必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

総合学科には、多様な進路志望及び学力の生徒が在籍しており、学習意欲や学習到達目標に大きな開きがある。一般に、進路目標が明確な生徒は、概ね本校の学習目標に到達しているものの、進路目標の明確でない生徒には、単位制であることも重なって、学習習慣が身についておらず、学習目標への到達意欲も希薄な傾向がある。そのため、多様な選択科目を設定し、各自の進路目標に併せた科目選択を指導している。また、1年次で必履修の「産業社会と人間」（2単位）や2年次の総合的な学習の時間及び研修旅行などを通して一層生徒の進路への関心を高め、学習意欲の向上へと繋げていく必要がある。

看護科では、高校3年・専攻科2年、合計5年の一貫教育を経た後、看護師として自立することを前提に教育がなされている。したがって、全生徒が看護師国家試験に合格することを目標に教育活動が行われている。殆どの生徒は、将来看護師となることを目標に入学しているが、病院などでの実習を通して自らの適性に不安を感じ始める生徒もいる。また、基礎学力が十分身につけていないため、学年が進行するにつれて、医療分野の高度化に伴い高度になる学習内容に対応できない生徒も見受けられる。生徒の基礎学力を如何に充実させるかについては、看護科教師を含め全教職員の努力と工夫が求められている。

在籍する全生徒には、本校での教育活動全般を通じ、学力面だけでなく社会性や人間性の育成が求められる。学校評議員の方々からは、地域住民や会社経営者、保護者や同窓生、さらには元県立高校校長などの視点で有意義な意見を頂いている。現状維持でなく、学校評議員の方々の意見も参考に多様で視野の広い教育活動を実践していく必要がある。

8 学校アクションプラン

平成22年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 1 -							
重点項目	学 習 活 動						
重点課題	学力の向上と定着を図る家庭学習習慣の確立						
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路目標が多様であることから、それぞれに応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であるため、教科によって成績にばらつきが見られる生徒が多い。 生徒の中には進路目標が明確に定まらないことが、学習意欲に影響を与えている場合があり、自学自習の習慣が身に付いていない生徒や家庭学習をしない生徒も見受けられる。 平成21年度の生徒の授業に対する満足度(アンケート調査)は、3.9/5.0であった。 						
達成目標	①家庭学習時間を平均2時間以上にする。 実態調査での達成度 70% ②授業の内容を充実し、確かな学力を身に付けさせる。 アンケート調査での生徒の授業に対する満足度 4.0/5.0以上(5点満点で全教科・全生徒平均)						
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい生活パターンを各自で作らせ、進路を意識した学習習慣の定着・改善を図る。 担任等による面接指導を充実する。 小テストや課題テストを計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 授業に関する満足度調査を学期に1回実施する。 各授業のねらいを明確にして、その目標を達成するための授業の工夫をする。 互見授業を年1回以上実施し、指導法等の授業改善に関する研修会を行う。 						
達成度	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 1学期 平日 総52.0% 看61.5% 休日 総83.0% 看82.3% 2学期 平日 総50.8% 看62.6% 休日 総77.0% 看81.3% 平均 平日 総51.4% 看62.1% 休日 総80.0% 看81.8% </td> <td style="width: 50%; vertical-align: middle;"> 1学期 (3.9/5.0) 2学期 (4.0/5.0) 平均 (4.0/5.0) </td> </tr> </table>	1学期 平日 総52.0% 看61.5% 休日 総83.0% 看82.3% 2学期 平日 総50.8% 看62.6% 休日 総77.0% 看81.3% 平均 平日 総51.4% 看62.1% 休日 総80.0% 看81.8%	1学期 (3.9/5.0) 2学期 (4.0/5.0) 平均 (4.0/5.0)				
1学期 平日 総52.0% 看61.5% 休日 総83.0% 看82.3% 2学期 平日 総50.8% 看62.6% 休日 総77.0% 看81.3% 平均 平日 総51.4% 看62.1% 休日 総80.0% 看81.8%	1学期 (3.9/5.0) 2学期 (4.0/5.0) 平均 (4.0/5.0)						
具体的な取組状況	①週末課題などを適宜課して、学習習慣の定着を図った。 —各学年の取り組み状況— (1年)学習計画表や学習時間帯を記入させ、担任は生徒一人ひとりの学習状況の把握に努めた。 (2年)毎日の朝学習プリントや再テスト等を実施し、基礎・基本の定着を図った (3年)進路目標の実現に向けて、担任は個別面接を一人当たり平均5回以上行った。 ②互見授業を実施し、指導法の研究を行った。また、生徒による授業評価を実施し、分かり易い授業になるように工夫した。						
評 価	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">①</td> <td style="width: 10%;">C</td> <td>休日の学習時間平均2時間以上は総合学科・看護科ともに70%以上であるが、平日では総合51.4%看護62.1%である。1・2年次は学期が進むと平日の学習時間が減少する傾向がある。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>B</td> <td>今年度目標とした4.0の目標をほぼ達成した。</td> </tr> </table>	①	C	休日の学習時間平均2時間以上は総合学科・看護科ともに70%以上であるが、平日では総合51.4%看護62.1%である。1・2年次は学期が進むと平日の学習時間が減少する傾向がある。	②	B	今年度目標とした4.0の目標をほぼ達成した。
①	C	休日の学習時間平均2時間以上は総合学科・看護科ともに70%以上であるが、平日では総合51.4%看護62.1%である。1・2年次は学期が進むと平日の学習時間が減少する傾向がある。					
②	B	今年度目標とした4.0の目標をほぼ達成した。					
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路を実現するためには家庭学習時間が少ないように感じる。 わかる授業が生徒の励みに繋がる。授業が楽しく感じられる工夫をさらに進めて欲しい。 学習の基礎基本について、さらに検討を重ねて欲しい。 						
次年度へ向けての課題	①進路意識の向上を図る方策を確立する。 より多くの生徒が、意欲的に学習に取り組むように、進学のための学習だけではなく社会人として必要な基礎学力を身に付ける必要性に気づかせる。また、進路実現に直接関連しない教科						

	科目に対する意識付けと意義付けの工夫を今後とも図っていく必要がある。 ②生徒による授業評価や互見授業をもとに、授業内容を工夫し、より分かり易い授業を行う	
(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)		
平成22年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学 校 生 活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上（正しい制服の着こなしの定着と交通安全意識の高揚） ・心のケアサポートの充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の改造や変形を行う生徒はいないが、流行を追い、制服をだらしなく着用する生徒が一部に見られる。 ・交通安全に関するマナー（自転車、歩行者）のよくない生徒が見られる。 ・生徒の間に特定のグループを作り行動する傾向が見られ、人間関係に悩む生徒がいる。 	
達成目標	①規範意識の向上	②心のケアサポートの充実
	『制服の着こなし』『交通安全意識』を含めた規範意識に関するアンケート（5段階評価）で「守っている」「ほぼ守っている」と自己評価する生徒の割合が全校生徒の9割以上	ホームルームでのグループエンカウンター の活用が年1回以上 該当生徒の専門家との個別面談の回数が年4回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に服装指導を行う。 ・「制服着こなしセミナー」を実施する。 ・生徒会規律委員会の活動を通して、各自の身なりについて考えさせる。 ・学校周辺の路上で定期的に乗車指導を行う。 ・定期的に駐輪場における指導を行う。 ・講師を招いて交通安全に関する講習会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループエンカウンターをホームルームに取り入れることによって、気心の知れた仲間以外との繋がりがもてるようにする。 ・高校生のための支援事業を活用し、個別面接の機会を提供する。
達 成 度	①1月実施の自己評価アンケートで「守っている」「ほぼ守っている」が、『制服の着こなし』については89%、『交通安全意識』については96%であった。 ②グループエンカウンターを全学年のホームルームに取り入れることはできなかったが、実施したクラスの生徒アンケートでは90%の生徒が満足したと解答した。	
具体的な取組状況	①月例の服装指導、「制服着こなしセミナー」は例年通り実施した。 自転車通学生に対しては、駐輪場における指導に加えて、街頭路上での乗車指導を実施した。 交通安全に関する講習会は実施できなかった。 ②一部クラスでグループエンカウンターを実施した。専門家との個別面談は3回実施した。	
評 価	① B	生徒の意識レベルは、安定してきている。今年度は、生徒会規律委員会の活動機会が増えた。
	② B	グループエンカウンターを実施したクラスでも何度も取り入れることは時間的に無理であった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導において、家庭・地域と円滑に連携・協働していくことが大切である。 ・グループエンカウンターは良い試みである。 	

次年度へ向けての課題	<p>①学年間において、生徒の意識レベルの差が開いてきている傾向がある。従前の生徒とは異なる価値観を持つ生徒が増えつつあることへの対応。</p> <p>②臨床心理士に訪問してもらえる時間と相談したい時間がうまく合わない場合もあり定期的に訪問してもらえる体制が必要である。</p> <p>教職員の研修を一層充実させ、グループエンカウンターを活用をはかる。</p>
------------	--

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成22年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 3 -			
重点項目	進路支援		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導の充実 確認テストの実施 社会人や大学等の先生による講話の実施 		
現状	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」(総合学科)や様々な進路ガイダンスを通して、進路や職業について考察を深めているが、進路意識が希薄なため、家庭学習が習慣化していない生徒が少なからずいる。 学習態度はまじめであるが、基礎学力が定着していないため、学習活動に困難を感じている生徒がいる。 		
達成目標	①面接指導の充実	②社会人・大学教員等による講話	③確認テストの実施(1・2学年)
	年 5回以上	各学科・各学年 年3回以上	各学期 1回
方策	<ul style="list-style-type: none"> 担任との面接を充実させる。また担任以外の先生と話す機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な講話を通して多様な考え方や見方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導を充実し、確認テスト等により、基礎学力の定着を図る。
達成度	担任による面接指導回数 1年：5回/1人 (副担任による面接指導を含む) 2年：5回/1人 3年：7回/1人	総合学科 1年：4回 2年：6回 3年：3回 看護科及び看護科専攻科 全体：1回 学年別等：9回	<ul style="list-style-type: none"> 英語、数学、国語の3教科で各学期に1回ずつ計画的に実施した。 学力の定着度が低い場合には、再テストを実施した。
具体的な取組状況	<p>①担任との面接は、 (1年) 高校生の学習習慣づくりへの支援及び次学年への科目選択の指導を中心に行った。 また、高校生活に馴染めない生徒への支援を手厚く行った。 (2年) 学習及び生活指導、進路指導を中心に行った。 (3年) 学習指導及び就職指導、進学指導の進路支援を中心に行った。</p> <p>①就職指導については、求職状況の厳しさが続き、外部講師を招くなどより丁寧な指導を行った。 また、進学指導の面接・小論文指導についても全職員の協力を得て計画的に行った。</p> <p>②社会人や大学教員等による講演、出前講座の模擬授業が多数実施され、好評であった。また、昨年同様に、2年保護者対象の「進学マネープラン」の講演を行い、好評であった。上級生との進路懇談会も、進路希望別に開催した。</p>		
評価	① A	担任等による面接指導は、ほぼ例年通り実施された。	
	② A	講演等は各学科・各学年で、ほぼ年3回以上実施し、生徒の進路意識を高めた。	
	③ A	確認テストは、毎学期計画的に実施された。	

学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も面接指導を行い成果も出ていると思われるので、あまり回数にこだわる必要はないのではないか。 ・将来を展望し、進路について考えさせる機会をさらに充実させて欲しい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の資質が多様化している中で、担任だけでなく部活動の指導など様々な場面を通してよりきめ細かな面接指導が求められる。 ②学習習慣の定着と基礎学力の定着は密接に繋がっている。家庭学習の指導などの丁寧な指導がより重要性を増している。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成22年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 4 -				
重点項目	特別活動			
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実 ・部活動の充実 ・読書意欲の向上と幅広い読書の推進 ・生徒図書委員会の広報活動の充実 			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・文化部発表会・スポーツ大会などの学校行事の運営を生徒会執行部や係生徒だけで行うことが多い。今年度は3年に一度のいずみ文化展もあり、学校行事に対して、一般生徒がいかに主体的に参加し、高い満足を得るかが課題である。 ・部活動は、加入率も高く、活動の成果・実績も徐々に上がりつつあるが、生徒の自主的活動という面ではいくつかの問題がある。部長等をリーダーとした組織的な活動がより充実されることが望まれる。 ・生徒一人あたりの年間読書冊数は増加している。しかし、読書習慣が身につけていない生徒もあり、また進路に応じた読書等、多面的な読書まではいたっていない。 ・生徒図書委員会の活動は活発で責任感を持って取り組んでいるが、一般生徒への意識付けが十分でない。 			
達成目標	①学校行事の運営・活動に対する満足度	②部活動のリーダーに対する研修	③年間読書冊数	④生徒図書委員会の各行事参加人数
	アンケート調査で80%以上	年3回以上	一人10冊以上(1・2年生)	50人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化を図るため、学校行事の効果的運営を検討実施する。 ・学校行事に対するアンケートを継続実施し、生徒の満足度を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新チームのリーダーを対象に研修会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「LIBRARY」の発行など、機会を捉えて図書を紹介する。 ・「朝読書」の実施、「読書履歴カード」の記入などを通して読書意欲の向上を図る。 ・「統一HR」で学年に応じたクラス読書等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のあるテーマを設定し、内容を充実させる。 ・ポスターや放送等の広報活動を工夫する。
達成度	体育大会満足度 92.7% 文化展満足度 84.9%	運動部活動講習2回実施。 部長会議を5回実施。	3月末現在一人平均 3学年 8.9冊 2学年 9.8冊 1学年 12.0冊	行事参加人数 読書会 34名 教養講座 30名
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①体育大会での種目出場の規定を明確にし、リレーは原則一回などとし、文化展においても各クラスで必ず参加させるなど多くの生徒が活動できるよう工夫した。 ②運動部活動講習は2回、部長会議は5回実施した。 ③文化展で教職員の推薦図書等の展示発表や朗読会を実施した。統一HRでは、1年生は「読書ボード」の作成、2,3年生は新書等を読み、紹介文を書くなど、幅広い読書を推進した。 ④読書会、教養講座ともに参加者は30数名であった。生徒による企画であり、図書委員自身が放送を通して広報に努めた。参加者の満足度は高かった。 			
評 価	① A	今まで満足度の低かった文化展もアンケート集計において80%以上の満足度を得た。		
	② C	運動部活動講習会を7月にも実施したいが、日程的に行事が多くあり難しい。		
	③ A	1・2年は目標に達した。3年では進路に関わる読書への抵抗感が軽減されている。		
	④ C	図書委員は企画段階から積極的に活動しているが、参加者増には至らなかった。		

学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・文化展に対する生徒満足度が向上しており評価したい。さらなる充実を期待する。 ・高校で培ったいろいろなものが将来生きてくる。部活動を一生懸命やった人は社会で即戦力になる。
次年度へ向けての課題	<ol style="list-style-type: none"> ①今年度以上に生徒が主体となって各行事が進めていけるように工夫し、その満足度を少しでも上昇させる。 ②何とか3年生から下級生にバトンが引き継がれる7月に運動部活動講習会を実施し、スムーズに世代交代ができるようにする。 ③個々の生徒の読書状況を把握する。学年と連携し、さらに幅広い読書への働きかけを定着させる。 ④生徒が楽しみながら教養を深めることができる企画を工夫し、図書館行事への参加意識を高める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成22年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	進路支援(看護科教育)	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教科科目および専門教科科目の基礎学力の定着と向上 ・看護師国家試験合格を目指した学習指導の確立 ・専門教科への興味・関心の涵養 ・専攻科生の進学・就職指導の充実 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・5年一貫教育で専攻科への入学試験がないため、希望生徒は専攻科へ進学する。中には学習への取り組みが十分でなく基礎学力が定着していないため、専攻科に進学後、進路変更する生徒が見受けられる。 ・看護師養成には国家試験合格が不可欠である。平成21年・22年の国家試験は2年連続で全員が合格し、現在も引き続き100%合格を目指し努力を続けている。 ・専攻科卒業後、保健師・助産師・養護教諭養成機関への入学を希望している生徒がいる。 	
達成目標	①看護師国家試験合格率100%	②進路希望達成度100%
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験に合格する学力と、臨地実習に対応できる力を養うため5年間を見通した指導法の工夫を図る。 ・看護師国家試験の出題基準や内容の改訂に沿った指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する情報を提供すると共に希望する進路に向けて個別指導を強化する。 ・専門職種としての意識を高める教科指導法および看護科行事の工夫改善を図る。 ・生徒のかかえる問題、悩み等に対する面接の充実を図る。
達成度	①100%	②100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に伴い毎週教科会議で5年間を見通した指導内容等の検討を行い、看護科目間の共通理解を図った。 ・臨地実習先の指導者と連携を図り、次年度に向けて実習上の指導法や課題について検討し、日程調整など充実した実習計画の改善に努めた。 ・専門職種の講師による講演会を実施し、生徒の興味・関心を高めるよう努めた。 ・看護科・専攻科全生徒の意識調査を例年と同様に実施し、調査分析結果の確認をした。 ・国家試験新出題基準について、資料を配布し周知徹底を図った。また、国家試験対策の特別授業を計画し放課後等実施した。 ・就職者および保健師、助産師、養護教諭養成機関への進学希望者に対し、卒業生を迎え進路懇談会を実施するとともに、小論文や面接等の個別指導を行った。 	
評価	① A	・専攻科生30名が受験し、全員合格した。
	② A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校から専攻科へ全員が進学する。 ・専攻科は就職・進学とも全員が希望を達成している。

<p>学校評議員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の気持ちを酌める心優しい看護師の育成を引き続きお願いする。 ・病院実習を楽しみに出かけていく生徒が多いと聞き、受け入れている病院としても嬉しい。また、臨地実習専門ナースを配置し、よりよい実習をサポートする体制を整えた。 ・先生方にプレッシャーとは思いますが、きめ細かな指導を今後もお願いしたい。
<p>次年度へ向けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に沿って、看護各科目間の連携を図り指導内容の再検討や精選および指導法を工夫する。また、実習施設との連携を図り臨地実習の充実に努める。 ・生徒の看護に対する興味・関心を継続・向上させる教科指導と看護科行事の工夫・改善を図る。 ・保健師、助産師、養護教諭養成機関への進学希望者が増加しており、生徒一人一人に応じた進路指導の充実に努める。 ・外部講師、非常勤講師の確保と授業内容の調整など連携を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)